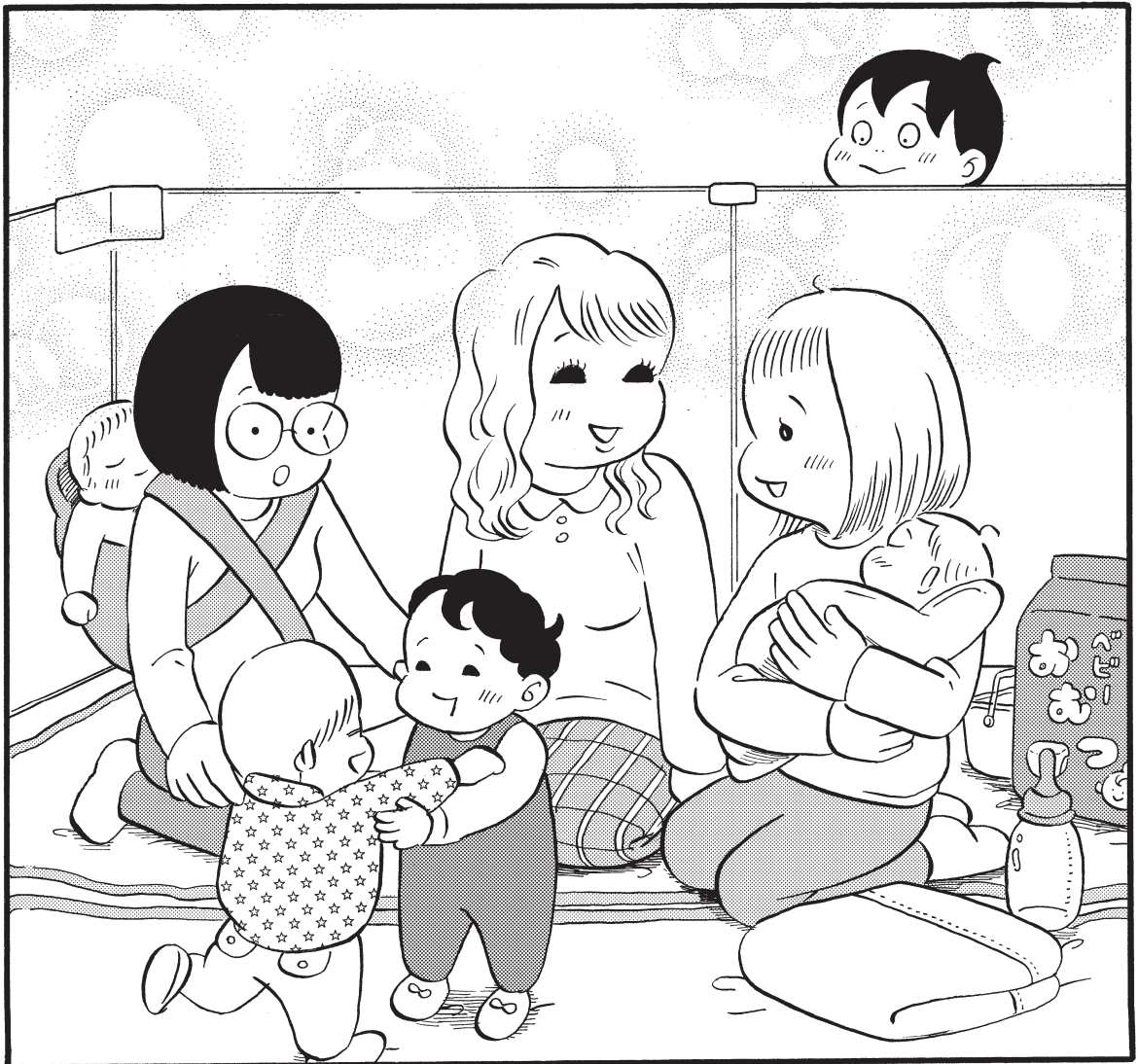


ひなんじょこころが
【避難所で心掛けること】

あか かんが
赤ちゃんのことを考える

▶ あか 赤ちゃんのための部屋をつくる



赤ちゃんのことを考える

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ① 避難所で赤ちゃんが泣いています。「よしよし、泣かないで」と、お母さんがあやしています。でも、赤ちゃんは泣きやみません。
- ② 「フギャー、フギャー」。ますます、大きな声で泣く赤ちゃんに対して、周りの人たちはいらいらしてきました。「うるさいなあ」「どこか他の所へ行ってくれないかしら」。
- ③ ブツブツ文句を言っている人。一方、赤ちゃんが泣きやまず困っているお母さん。それを見たみなとくんは、「〇〇〇〇〇」

▶ セリフの例 (気持ち)

- 「赤ちゃん、どうして泣きやまないんだろう」
 「赤ちゃん、かわいそうだな」
 「何とかしてあげたいな」

▶ 発問例

- ・ 赤ちゃんはどうして泣いているのですか？
- ・ 赤ちゃんが泣きやむためには、どうすればいいですか？
- ・ 赤ちゃんもお母さんも、周りの人に遠慮しないで避難所で過ごすためには、どうすればいいですか？

■ 教訓シートの説明



▶ 赤ちゃんのための部屋をつくる

- ・ 赤ちゃんは言葉が話せないので、泣くことによって「おなかがすいた」「頭が痛い」「おむつが濡れている」などを知らせます。赤ちゃんが何をしてほしいのかを考えて、対応しなくてはなりません。いろいろと試してみても、どうしても泣きやまない時もあります。
- ・ 一方、避難所には、さまざまな人が集まって来ます。間仕切りのない体育館で、まったく知らない人と隣同士で過ごすということもあります。
- ・ 災害によって大人も子どももショックを受け、情緒が不安定になりがちです。ふだんなら気にならないような物音をとてもうるさく感じる時もあります。
- ・ 泣いている赤ちゃん、困っているお母さんやお父さん、泣き声をうるさく感じる人。みんなが、気持ちよく過ごせる避難所にするため、赤ちゃんがいる家族を同じ部屋にするなどが考えられます。

■ 東日本大震災の教訓

避難所では、「顔見知りの人と一緒に過ごせるように、住んでいる地区ごとに部屋を割り当てる」「ペットは体育館の中に入れず、外につないでおく」など、さまざまな配慮をして、みんなが過ごしやすくなるようにしました。